

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-1 : 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

( 観点到る状況 )

本校が教育以外に掲げる独自の目的のうち中期計画から教育サービスに関するものを資料B-1-1-1に示す。

資料B-1-1-1

「教育サービスの目的」

3. 社会との連携、国際交流に関する事項

地域の産業界からの技術相談、共同研究への対応(テクノセンター等を含む。)

略

共同研究・受託研究の成果公開

略

生涯教育としての公開講座の実施

・企業における技術者及び一般社会人を対象とした各種公開講座を行うための学内組織の体制を整え、実施する。

・適宜アンケートをとり7割以上の満足率達成を目指す。

地域社会との連携・協力、社会サービス等

・社会人が必要とする技術教育分野について調査し、社会人向け講座(遠隔授業を含む。)を開講する。

・地域の公的機関等の委員会・審議会等の委員として教員を積極的に参画させる。

・地域社会の教育に貢献する。

毎年サイエンスワールド(岐阜県先端科学技術体験センター)等に教員及び学生を派遣する。

・社会人向けリカレント教育体制の整備を図る。

平成17~20年度:リカレント教育体制として、夜間開放講座の開設を検討する。

・地域のニーズに応じた公開講座を開催する。公開講座開設数は年8講座以上開催する。

毎年、以下の講座の開講・講師派遣依頼に積極的に応じる。

企業向け公開講座、中学生向けの「ものづくり教室」、中学校へ出前講座、情報処理に関する講座の講師派遣、岐阜県等が開催する研修会へ講師を派遣する。

平成17~20年度:社会人向け公開講座を実施する。

( 出典 岐阜工業高等専門学校中期計画 )

各学科で実施している公開講座の一覧を資料B - 1 - - 2に示す。

資料B - 1 - - 2

「平成17年度公開講座の一覧」

岐阜工業高等専門学校 平成17年度公開講座等一覧

番号	講座名	期間	時間帯	募集人員	受講時間	講師	受講者数
1	レスキューロボット工作教室 実施場所・ソフピアジャパン	7月23日(土) 7月24日(日) 2日間	9:00~ 17:00	中学生 30人	14時間	機械工学科 奥川雅之	40人
2	＃ 実施場所・高山市(飛騨・世界生活文化センター)	9月17日(土) 9月18日(日) 2日間	9:00~ 17:00	中学生 30人	14時間	機械工学科 奥川雅之	9人
3	メカものづくり教室	8月3日(水)	9:30~ 16:30	中学生 40人	6時間	機械工学科 山本雄三 外	29人
4	コンピューターワールド2005(夏)	7月29日(金)	13:00~ 16:00	中学生 90人	3時間	電気情報工学科 全 教 官	33人
5	コンピューターワールド2005(秋)	10月29日(土) 10月30日(日)	14:00~16:00 10:00~15:00	一般、中学生 枠になし	7時間	電気情報工学科 全 教 官	240人
6	電流を測ってみよう	8月2日(火)	10:00~ 15:00	中学生 20人	4時間	電気情報工学科 北川憲一	3人
7	中学生のためのロボット組立入門	7月21日(木)~ 7月22日(金)2日間	10:00~ 16:00	中学生 30人	10時間	電子制御工学科 白井誠男, 遠藤真一郎, 木下祥次, 田中光三, 北川秀夫, 遠藤登, 森貞彦	30人
8	VHDL/FPGA入門	8月25日(木)~ 8月26日(金) 2日間	10:00~ 16:30	一般 8人	11時間	電子制御工学科 福永哲也, 藤田一彦	7人
9	環境都市工学科 生活に身近な現象や技術を学ぼう	8月23日(火)~ 8月24日(水) 2日間	9:30~ 15:30	中学生 10人	10時間	環境都市工学科 和田清, 津村清邦, 奥村敬	12人
10	親と子で学ぶ地震に強いすまいづくり教室	7月23日(土)~ 7月24日(日) 2日間	10:00~ 15:00	10~15歳生徒とその保護者 10組(20人)	6時間	建築学科 柴田良一	4組
11	七宝焼教室	8月26日(金)	13:00~ 16:00	一般、中学生 20人	3時間	技術教育係 松原芳夫, 佐藤健治, 奥田浩幸, 奥村政充, 佐藤昌彦	18人
12	ものづくり教室	7月28日(木)~ 7月29日(金)2日間	9:30~ 15:30	中学生 20人	10時間	技術教育係 松原芳夫, 佐藤健治, 奥田浩幸, 奥村政充, 佐藤昌彦	6人

(出典 庶務課資料)

中学校を対象として出前授業を実施している。毎年、教務会議から教員に依頼し、計画的に実施している。その案内を資料B - 1 - - 3に示す。テーマは一部である。

「平成17年度出前授業の案内」

平成17年度出前授業リスト

特定のテーマに希望が集まった場合などはお断りさせて頂くことがあります。  
お問い合わせは 環境都市工学科 鈴木 まで

番号	テーマ名	担当(所属)	簡単な内容紹介
L-1	ドイツ語入門	佐藤修司教授(人文)	発音と挨拶
L-2	数の英語	清水 晃教授(人文)	数に関する英語表現をクイズ形式で楽しく紹介します。
L-3	映画で学ぶ英語	龜山太一教授(人文)	アニメ映画などで使われている易しい英語を楽しく学びます。
L-4	外国語学習の喜び	高原清志教授(人文)	「英語やドイツ語の学習はこんなに楽しい」という話と、「効率的な話と実演をします。
L-5	伝承の世界	宮口典之助教授(人文)	『御伽草子』『浦島太郎』を読む
L-6	古典入門	中島泰貴助教授(人文)	五十音図・いろは歌などを素材に、仮名遣いについての解説と紹介
L-7	仮名表現史	中島泰貴助教授(人文)	ひらがなによる散文獲得の歴史
L-8	濃尾平野の戦国時代史	山本浩樹助教授(人文)	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康らが木曾三川の流域ではげしく戦史をひもとき、濃尾平野の地域特性を考えます。
L-9	税金入門	久保田圭司助教授(人文)	所得税の基本的な計算方法を紹介します。
N-1	分数の理論	久綱正和教授・中島泉助教授(自然)	142857 に関する不思議な計算の秘密と分数の理論を紹介します。
N-2	約数・倍数の理論	久綱正和教授・中島泉助教授(自然)	111111 は7の倍数です。このような、約数・倍数の理論を紹介しま
N-3	式の展開の応用	久綱正和教授・中島泉助教授(自然)	15 × 15, 25 × 25, 35 × 35, … の計算術とその秘密を解明します。
N-4	2次関数の応用	久綱正和教授・中島泉助教授(自然)	真上に投げ出されたボールはどこまで上がるか。この問題を、2次
F-1	物はまっすぐ下に落ちない	篠原 勝 教授(専門基礎)	真っ直ぐ立てたパイプの中に小さな球を落とすと中心に移動しますう？水を入れたガラス管で実演します。
F-2	磁性流体:磁石に引き寄せられる液体	篠原 勝 教授(専門基礎)	磁性流体に磁石を近づけると、引き寄せられたり、伸びたり、蜂の
M-1	流の作用	山本雄三教授(機械工学科)	代表的なフラッターを教卓上で発生させ、その現象を説明します。
M-2	シーケンス制御入門	加藤浩三教授(機械工学科)	パソコンとプロジェクタを用いてシーケンス制御の概要を説明する。装置を持ち込み実演する。
M-3	小型ホバークラフトの作製	小栗久和助教授(機械工学科)	紙コップやスチレン製の弁を使って、小型ホバークラフトを作製する
M-4	エアコンのしくみ	石丸和博助教授(機械工学科)	日頃何気なく使っているエアコンのしくみを実験装置を使って説明し
M-5	金属の性質	山田実助教授(機械工学科)	(1)形状記憶合金の実験:普通のばねと形状記憶合金のばねと比 (2)焼入れた鋼の硬さ:炭素鋼の丸棒を空冷と水冷し、もろさを比較 (3)加工による硬さの変化:アルミニウムの細い棒を折り曲げ、硬さを
E-1	電流を測ろう	北川恵一教授・西田鶴代助手(電気情報工学科)	一定の磁界と電流が作る磁界とによって電流を測ります。また実用計を分解して電流計の内部構造を理解します。
E-2	抵抗を測ってオームの法則を知ろう	北川恵一教授・西田鶴代助手(電気情報工学科)	抵抗の並列・直列接続を学び、オームの法則を理解します。固定抵抗CdS素子、豆電球などの抵抗を調べます。
E-3	乾電池の性質を知ろ	北川恵一教授・西田鶴代助手(電気情報工学科)	単三の乾電池を使い、電気特性を調べると共に充分放電させて、

(出典 ホームページ)

正規課程の学生以外へのサービスとして科目等履修生を受け入れることができるよう規程を定めて

いる。科目等履修生の規程を資料B - 1 - - 4 に示す。

資料B - 1 - - 4

「科目等履修生規程」

岐阜工業高等専門学校科目等履修生規程

制定平成5年3月17日

最終改正平成17年8月24日

(趣旨)

第1条岐阜工業高等専門学校学則第50条の規定に基づき、科目等履修生に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(入学資格)

第2条科目等履修生として入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると校長が認められた者

(入学の時期)

第3条科目等履修生の入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学志願の手続)

第4条科目等履修生として入学を志願する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて入学の14日前までに校長に願出しなければならない。

- 一 科目等履修生入学願書(別紙様式第1号)
- 二 履歴書
- 三 最終出身学校の卒業又は修了(いずれも見込みを含む。)証明書
- 四 現に職を有している者は、勤務先所属長の承諾書又は依頼書

(入学者の選考)

第5条入学者の選考は、面接試験又はその他の方法により行う。

(入学の許可)

第6条前条の選考に合格した者は、所定の期日までに入学料を納付し、所定の書類を提出しなければならない。

2 校長は、前項の手続きを完了した者に入学を許可する。

3 入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書(別紙様式第2号)を提出しなければならない。

(指導教員)

第7条校長は、科目等履修生に対し、履修に関する必要な指導助言を与えるため、指導教員を定める。

(履修期間)

第8条科目等履修生の履修期間は、当該年度内とする。ただし、科目等履修生の願出により、校長が必要と認めるときは、1年に限りその期間を延長することができる。

2 前項ただし書きによる履修期間の延長を希望する者は、履修期間延長願(別紙様式第3号)を校長に提出しなければならない。

(履修科目)

第9条科目等履修生が履修できる科目は、校長が本校の教育研究上支障がないと認める科目とする。

2 科目等履修生が履修できる科目は、別に定める。

(授業料の納付)

第10条科目等履修生の授業料は、所定の期日までに、履修する科目に係る金額を納付しなければならない。

2 授業料を納めない者は、除籍する。

(授業料、入学料及び検定料)

第11条授業料、入学料及び検定料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則(平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号)の定めるところによる。

2 既納の授業料、入学料及び検定料は、返還しない。

(職業の従事)

第12条科目等履修生が職業に従事又は転職した場合は、その旨を校長に届け出なければならない。

(単位修得の認定)

第13条科目等履修生が、履修した科目を修得した場合は、所定の単位を認定する。

2 校長は、単位を認定した者から願い出があったときは、その認定科目につき、単位修得証明書(別紙様式第4号)を交付する。

(退学)

第14条科目等履修生が履修期間満了前に退学しようとするときは、指導教員の承諾を得て退学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 校長は、この規程に違反した者、若しくは指導教員の指示に従わない者又は、疾病等やむを得ない事情により成業の見込みのない者に対して、退学を命ずることがある。

(他の規定等の準用)

第15条この規程に定めるもののほか必要な事項は、学則等学内諸規定を準用する。

(雑則)

第16条この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 規則集)

正規課程の学生以外へのサービスとして研究生を受け入れている。研究生の規程を資料B-1-5に示す。

資料B-1-5

「研究生規程」

岐阜工業高等専門学校研究生規程

制定昭和58年3月1日

最終改正平成17年8月24日

(趣旨)

第1条岐阜工業高等専門学校学則第48条の規定に基づき、研究生に関し必要な事項は、

この規程の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 研究生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
- 二 高等専門学校を卒業した者と同等以上の研究能力及び学力があると校長が認めた者

(入学の時期)

第3条 研究生の入学は、学年又は学期の始めとする。

(志願手続)

第4条 研究生として入学を志願する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて入学の14日前までに、校長に願い出なければならない。

- 一 研究生入学願書(別紙様式第1号)
- 二 履歴書
- 三 最終学校の卒業又は修了(いずれも見込みを含む。)証明書
- 四 現に職を有している者は、勤務先所属長の承諾書又は依頼書

(入学者の選考及び入学許可)

第5条 前条の入学志願者について面接試験その他により選考する。選考の結果合格した者は、所定の期日までに入学料を納付しなければならない。

2 校長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書(別紙様式第2号)を提出しなければならない。

(指導教員)

第6条 校長は、研究生に対し、研究に関する指導助言を与えるため、指導教員を定める。

(研究期間)

第7条 研究生の研究期間は、当該年度内とする。ただし、研究生の願い出により、校長が必要と認めるときは、1年に限りその期間を延長することができる。

2 前項ただし書きによる研究期間の延長を希望する者は、研究期間延長願(別紙様式第3号)を校長に提出しなければならない。

(授業料の納付)

第8条 研究生の授業料は、前期及び後期の2期に区分し、前期にあつては4月、後期にあつては10月に納入するものとする。

2 授業料を納めない者は、除籍する。

(授業科目)

第9条 研究生は、指導教員の指導により、校長が必要と認めるときは、授業科目担当教員の承諾を得て、その授業に出席することができる。

(研究報告)

第10条 研究生は、その研究が終了したときは、研究報告書を指導教員を経て、校長に提出しなければならない。

2 研究成果等の証明は、本人の願い出により、教務会議の議を経て発行する。

(実験及び実習費)

第11条 研究に必要な実験及び実習等（消耗品）の費用は、研究生の負担とする。

（授業料，入学料及び検定料）

第12条 授業料，入学料及び検定料の額は，独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）の定めるところによる。

2 既納の授業料，入学料及び検定料は，返還しない。

（職業の従事）

第13条 研究生が職業に従事又は転職した場合は，その旨を校長に届け出なければならない。

（退学）

第14条 研究生は，研究期間満了前に退学しようとするときは，指導教員の承諾を得て退学願を校長に提出し，その許可を受けなければならない。

2 校長は，この規程に違反した者，若しくは指導教員の指示に従わない者又は疾病その他やむを得ない事情により，成業の見込みがない者に対しては，退学を命ずることがある。

（その他）

第15条 この規程に定めるもののほか，必要な事項は，学則等学内諸規定を準用する。

（出典 規則集）

正規課程の学生以外へのサービスとして聴講生を受け入れることができるよう規程を定めている。聴講生の規程を資料B-1- - 6に示す。

資料B-1- - 6

「聴講生規程」

岐阜工業高等専門学校聴講生規程

制定昭和58年3月1日

最終改正平成17年8月24日

（趣旨）

第1条 岐阜工業高等専門学校学則第49条の規定に基づき，聴講生に関し必要な事項は，この規程の定めるところによる。

（入学資格）

第2条 聴講生として入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると校長が認めたる者

（入学時期）

第3条 聴講生の入学は，学年又は学期の始めとする。

（入学の出願）

第4条 聴講生として入学を志願する者は，次の各号に掲げる書類に検定料を添えて入学の14日前までに，校長に願い出なければならない。

- 一 聴講生入学願書（別紙様式第1号）
- 二 履歴書
- 三 最終学校の卒業又は修了（いずれも見込みを含む。）証明書

四 現に職を有している者は、勤務先所属長の承諾書又は依頼書

2 聴講生が聴講できる科目は、実験実習以外の科目とする。

( 入学者の選考及び入学許可 )

第5条前条の入学志願者について、面接試験その他により選考する。選考の結果合格した者は、所定の期日までに入学料を納付しなければならない。

2 入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書(別紙様式第2号)を提出しなければならない。

( 指導教員 )

第6条校長は、聴講生に対して聴講に関する指導助言を与えるため、指導教員を置くことができる。

( 聴講期間 )

第7条聴講生の聴講期間は、当該年度内とする。ただし、聴講生の願い出により、校長が必要と認めるときは、1年に限りその期間を延長することができる。

2 前項ただし書きによる聴講期間の延長を希望する者は、聴講期間延長願(別紙様式第3号)を校長に提出しなければならない。

( 授業料の納付 )

第8条聴講生の授業料は、所定の期日までに聴講する科目に係る全額を納付しなければならない。

2 授業料を納めない者は、除籍する。

( 授業料、入学料及び検定料 )

第9条授業料、入学料及び検定料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則(平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号)の定めるところによる。

2 既納の授業料、入学料及び検定料は、返還しない。

( 履修証明書 )

第10条聴講生には、願い出により、聴講した科目の履修証明書を交付することができる。

( 職業の従事 )

第11条聴講生が職業に従事又は転職した場合は、その旨を校長に届け出なければならない。

( 退学 )

第12条聴講生が聴講期間満了前に退学しようとするときは、指導教員の承諾を得て退学届を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 校長は、この規程に違反した者、若しくは指導教員の指示に従わない者又は疾病その他やむを得ない事由により成業の見込みがない者に対して退学を命ずることがある。

( その他 )

第13条この規程に定めるもののほか必要な事項は、学則等学内諸規定を準用する。

( 出典 規則集 )

( 分析結果とその根拠理由 )

本校の目標の一つに教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成がある。中期目標にも掲



げており、教育サービスの目的は地域貢献と明確にしている。また、公開講座、出前授業については具体的な方針・計画をホームページで公開し、公開講座は中学生の参加を想定して夏休みに、出前授業は中学校と日程を詳細に打ち合わせて計画的に実施している。また、中学生以外に、工業高校の教員を対象としたスキルアップ講座や一般を対象とした教養講座も開催している。科目等履修生、研究生及び聴講生の受け入れのための規程も整備し、受け入れ体制を整え、研究生については観点B - 1 - に示すように実績がある。

以上のように、高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスを計画的に実施している。

観点B - 1 - : サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。  
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。



「公開講座アンケート結果」

平成17年度公開講座アンケート結果

講座の名称	総開設時間数	受講対象者	受講定員	受講者数	有効回答者数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足度率(B/A)
レスキューロボット工作教室	14	中学生	30	40	40	40	100.0%
レスキューロボット工作教室	14	中学生	30	9	9	9	100.0%
メカものづくり教室	6	中学生	40	29	27	26	96.3%
コンピューターワールド2005(夏)	3	中学生	90	33	31	30	96.8%
コンピューターワールド2005(秋)	7	中学生	—	240	228	217	95.2%
電流を測ってみよう	4	中学生	20	3	3	3	100.0%
中学生のためのロボット組立て入門	10	中学生	30	30	30	28	93.3%
VHDL/FPGA入門	11	一般	8	7	7	7	100.0%
環境都市工学 ～生活に身近な現象や技術を学ぼう～	10	中学生	10	12	12	12	100.0%
親と子で学ぶ地震に強いすまいづくり教室	6	小・中学生	20	8	7	6	85.7%
七宝焼教室	3	中学生以上	20	18	13	13	100.0%
ものづくり教室	10	中学生	20	6	6	6	100.0%

(出典 庶務課資料)

出前授業の実施状況を資料B - 1 - - 2 に示す。

資料B - 1 - - 2

「出前授業実施状況」

出前授業 19 授業 (10 校)

No.	日	時	学校	対象	実施テーマ	備考
1	6月1日(水)	13:30-14:20	不破郡不破中学校	3年生19名+教諭1名	A5(鶴田)	
2	6月15日(水)	14:05-14:55	江南市宮田中学校	3年生40名	C9(鈴木正)	総合学習
3	11月4日(金)	午後	江南市宮田中学校	1~3年生15名	M3(小栗)	文化セミナー
4	7月5日(火)		岐阜市立陽南中学校	1~3年生 maxで40名	D6(藤田)	
5	7月5日(火)	11:00-12:00	海津市平田中学校	3年生30名+教諭2名	C2(鈴木孝)	
6	7月6日(水)	10:40-11:30	揖斐川町藤橋中学校	1~3年生9名+教諭7名	A2(土井)	
7	9月28日(水)	10:30-12:10	山県市伊自良中学校	3年生41名	A11(藤田)	並列開講
8	9月28日(水)	10:30-12:10	山県市伊自良中学校	3年生41名	E7(所)	並列開講
9	9月28日(水)	10:30-12:10	山県市伊自良中学校	3年生41名	L2(清水)	並列開講
10	9月8日(木)	午後	犬山市南部中学校	3年生40名+教諭2名	C6(吉村)	総合学習
11	9月8日(木)	午後	犬山市南部中学校	3年生40名+教諭2名	E5(山田・北川)	総合学習
12	10月4日(火)	午後	犬山市南部中学校	3年生40名+教諭2名	C9(鈴木正)	総合学習
13	10月13日(木)	13:30-14:20	羽島市竹鼻中学校		D6(藤田)	並列開講
14	10月13日(木)	13:30-14:20	羽島市竹鼻中学校		M5(山田実)	並列開講
15	10月13日(木)	午後	池田中学校	3年生8クラス	L8(山本)	並列開講
16	10月13日(木)	午後	池田中学校	3年生8クラス	C10(廣瀬)	並列開講
17	10月13日(木)	午後	池田中学校	3年生8クラス	L3(亀山)	並列開講
18	10月13日(木)	午後	池田中学校	3年生8クラス	D2(遠藤)	並列開講
19	11月10日(木)	13:10-16:10	揖斐川町坂内中学校	1~3年生12名+教諭1名	M3(小栗)	

OD 社 10 校

(出典 ホームページ教務掲示板)



出前授業のアンケート結果を資料B - 1 - - 4 に示す。

資料B - 1 - - 4

「出前授業アンケート結果」

平成17年 7月 6日

出前授業等の実施報告書

1. 授業実施者氏名	藤田 一彦
2. 授業同行者氏名	なし
3. 授業実施日時	平成17年7月5日(火): 13時40分～15時30分まで
4. 授業実施場所	岐阜市立陽南中学校 技術科室
5. 授業題目名	電気と磁気の不思議!
6. 受講者人数	18名
7. その他 (授業実施者の感想など)	いくつかの実験機材を持ち込んで、実際に中学生に触らせ体験する授業をした。今回のように「もの」に触れた授業はあまり無いようで、非常によい反応であった。実験の前に、結果を予想させ、目の前で実際にやってみて、予想とは異なる結果となるもの(意外性のあるもの)がよく受けたように思う。担当の先生の依頼もあって、大幅に時間を延長した。

授業アンケートの集計結果

アンケート回答人数	17人				
Q1: 出前授業の計画をどこで知りましたか?	ア	イ	ウ	エ	オ
	16				1
Q2: 授業の内容はどうか?	ア	イ	ウ	エ	オ
	6	8	2	2	
Q3: 総合的にみてこの出前授業は、	ア	イ	ウ	エ	オ
	14	4			
Q4: この授業を聞いて、岐阜高専について	ア	イ	ウ	エ	オ
	1	10	4	2	
Q5: その他の感想をご自由にお書きください	<p>・とても難しいところもあったが、実験は分かりやすくとても不思議で面白かった。中学校でも習うので、今日学んだことをこれからの授業で活かしていきたい。</p> <p>・知らないことがいっぱいあったので、もっと勉強して分かるようにして、自分で実験ができるようにしていきたい。</p> <p>・磁石の働きがよく分かった。電気の歴史がわかり易く、なるほどと思った。</p> <p>・授業でやらなかったことまで実験して楽しく学ぶことができてよかったです。電気や磁気についてももっと知りたいと思いました。</p> <p>・初めて磁場を感じることができました。オール電化の火を使わないキッチンの仕組みが分かりました。</p> <p>・電気と磁気について詳しく説明してくれた。身近で分かる秘密についてよく分かるようになった。またどこかで話が聞きたいです。</p> <p>・磁石を使ったり、電気を使ったりして実験してみても面白かったです。電気や磁石にもいろいろすごいことがあることが分かりました。</p> <p>・今まで授業で習って名前しか知らなかったことを実際に体験しわかることができたのでとてもよい授業でした。</p> <p>・自分の知らないことがたくさん知ることができました。</p> <p>・今まで電気のことについて勉強してきたんだけど、知らないことが分かって考え方が広がりました。</p> <p>・専門的な用語にたくさんふれることができ、磁気から電気がつくれることを知り、とてもよい体験をすることができうれしかったです。</p> <p>・専門的な知識に少しでも触れることができ、楽しかった。内容も感動的であった。</p> <p>・とても分かりやすく面白かったし、へえと思うことが多くありました。それに、今までおしえてもらったこともまたおしえてもらい再確認することもできました。</p> <p>・中学では学習しないことを学習することができたので楽しかった。もっと詳しいことについて学んでみたい。</p> <p>・磁石や電気のこと詳しく分かった。あとさきのことも勉強したとしても楽しかったです。</p>				

(出典 教務会議資料)

出前授業のアンケート結果を受けた改善案を資料B - 1 - - 5 に示す。

資料B - 1 - - 5

「出前授業アンケート結果に基づく改善案」

・出前講座

計画

資料 出前 1 の計画で中学校に案内を送り，実施予定を問い合わせた。あわせてホームページに掲載した。

実施

資料 出前 2 のように実施した。昨年度より若干開催数が減った。

点検

アンケート結果（資料 出前 3 ）からはおおむね満足できる結果であるが，昨年度に比べ厳しい意見もあった。担当者からの実施報告書（資料 出前 4 ）からも，やりにくい旨が報告された例もある。

入試関係の報告でもあったように，進路説明会とOB訪問あるいは進路説明会と出前の組み合わせは効果的であるので，出前授業をPRする必要がある。

改善案

中学校で実際に実演できるテーマを教員に依頼する。

4月・5月に早めに中学校訪問を実施し，PRする。

（出典 スパイラルアップ会議資料より抜粋）

資料B - 1 - - 6 に平成17年度の研究生を示す。

資料B - 1 - - 6

「研究生一覧」

不開示資料

（出典 平成17年度研究生報告書）

資料B - 1 - - 7に報告書の一例を示す。

資料B - 1 - - 7

「報告書の一例（抜粋）」

1. はじめに

1. 1 本研究の背景と目的

産業革命以来の活発な人間活動により、炭酸ガス、メタンガス、あるいは人工的に作られたフロンガスなどが大気中で増えている。これらのガスは太陽エネルギーを通す一方で、地球から宇宙空間へ放出される熱を吸収する性質を有しているため、論理的に言えば、産業革命以来の人間活動の活発化が地球の大気温度を上昇させたことは間違いない。大気温度が地球規模で変化すると気候全体が大きく変わり、社会に悪影響を及ぼすことが考えられる。

例えば、わが国では、1970年代終わり頃から最近にかけて、平均気温を1.5℃以上も下回る、あるいは上回る極端な冷夏・猛暑が起りやすくなっていることが報告されている。1.5℃程度の違いは取るに足らない変化であると思われがちだが、実は夏季3ヶ月平均での1.5℃の差は非常に大きなものである。極端な夏は豪雨・洪水災害、干ばつ・渇水災害や、同様に農作物に深刻な被害をもたらす冷害などの自然災害の頻発と密接に関連している。<sup>1)</sup>

また、より直接的に社会に影響を及ぼす大気現象は、台風、豪雨、長雨、干ばつなどがある。このうち、台風、豪雨は地球と比較して水平スケールの小さな現象である。地球全体を取り扱う気候モデルが再現できる現象はせいぜい台風程度の大きさまでであり、豪雨のような小さな現象を再現できる気候モデルはまだ開発されていない。地球温暖化を調べる気候モデルのなかで、分解能の細かいものだけが台風をシミュレーションできるといのが現状である。<sup>2)</sup>

また、気候は十年程度の時間間隔で変動をしており、このような自然現象が異常気象の発生に関係しているという面もある。従って、地球温暖化が異常気象の発生に及ぼす影響を調べるためには、豪雨などが計算できるモデルを用いて百年以上の長期計算を実施することが望ましい。しかしこれは、利用できるモデルの精度、計算機の能力からして、現在のところ実行不可能なことである。<sup>2)</sup>

ここでいう異常気象とは、一般に過去に経験した現象から大きく外れた現象で、人が一生の間にまれにしか経験しない現象を言う。大雨や強風等の激しい数時間の気象から数ヶ月も続く干ばつ、冷夏などの気候の異常も含まれる。<sup>3)</sup>

そこで本研究は、わが国の気象庁で観測された、データが整っている1961年から2005年までのデータを用いて、気象に関する極端な現象（極値）の出現頻度と生起確率を調べることで、近年の気候変動の有無とその程度を検証することを目的としている。

（出典 平成17年度研究生報告書より抜粋）



(分析結果とその根拠理由)

アンケートに見るように成果が上がっている。アンケート結果は教務会議や学科会議で検討し改善するスパイラルアップシステムがある。改善案が提示されており、システムは機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

出前授業に関して多くの実績があり、成果を上げている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校の目標の一つに教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成がある。中期目標にも掲げており、教育サービスの目的は地域貢献と明確にしている。また、公開講座、出前授業については具体的な方針・計画がホームページで公開し、公開講座は中学生の参加を想定して夏休みに、出前授業は中学校と日程を詳細に打ち合わせて計画的に実施している。また、中学生以外に、工業高校の教員を対象としたスキルアップ講座や一般を対象とした教養講座も開催している。

以上のように、高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスを計画的に実施している。

アンケートに見るように成果が上がっている。アンケート結果は教務会議や学科会議で検討し改善するシステムがある。改善案が提示されており、システムは機能している。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。